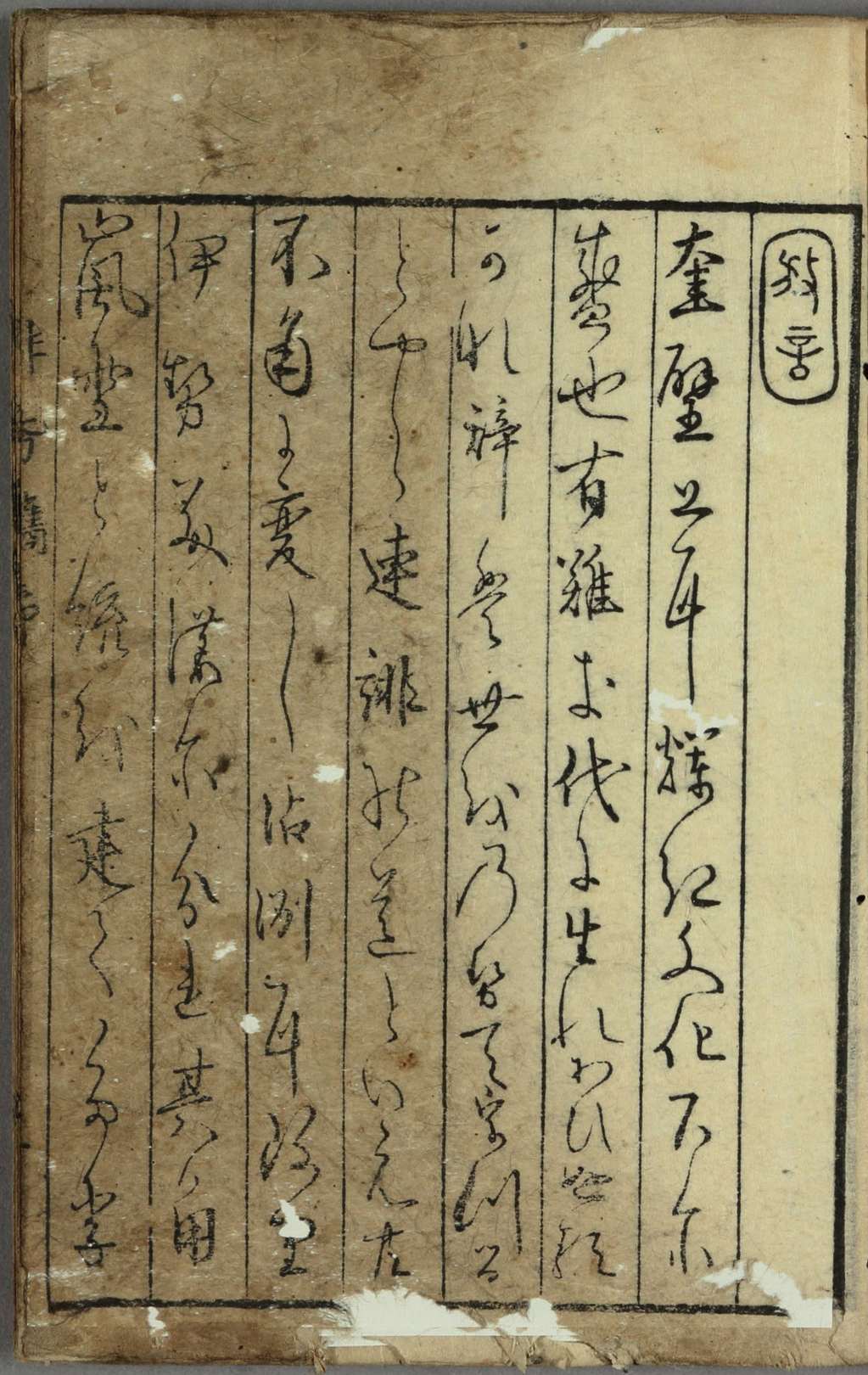
# 俳諧雋

全



[illegible]

奎壁之年煌紀文化乃[illegible]
[illegible]也有雅[illegible]代[illegible]生[illegible]
[illegible]辭[illegible]世[illegible]
[illegible]連[illegible]
不[illegible]之[illegible]
伊[illegible]
[illegible]

[illegible]

意分重[illegible]判者於扶賞分

[illegible]人心同[illegible]

[illegible]家道の好悪[illegible]

[illegible]高倅の旨を

集[illegible]悔[illegible]秘[illegible]高

[illegible]福奥分標[illegible]事





豈[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

結[illegible]家道の好悪分

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠くて

乃ち

妹

東叡山下人

露竹舎豊成誌

海内奇書



## 凡例

一此集ハ都下宗匠の心ト叶ふ句を撰ミ高矣なる事をわつ[illegible]をくしたの[illegible]

一凡言葉ハ句ふ神田川柳芝山の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

ちゝうひて評をなす事をおい宗匠は
其の面目とする所なり叶書に
於下の言葉大評遍く求り宗匠不
限ひて言葉を正しくせず好悪成
ゆき真自昨と正しく妻しく記事
のみを当座の事のみて書集序
少ハ有べし

一宗匠の世ものれ生涯治徳獨立成
景勝を正しく奥さまの世界

一宗匠の居所を正しく記を学成
さまざまのくあちこち然るに八丁堀
ト居のうちはうに住ト居わるハ
をみやるを以て一世界ひさしく
人〻ものを以て表彩へ

一一漁ちり季大まをと浅州庄一列也
平砂ちり萬主迄と江戸世し治山分

子鷹迚と沾山新ふる笠迚一列也

一存義らの里文天迚一列也ら成

存義新らの

一獨立丈上ら新ふ

染跡園　雪成　撰

笑々斎　笠雫　増

猿壽庵　如峩　刪定

叢桂樓　雪堂　校

## 釣月堂

浅竹馬道　前一漁門

百記香堂門

須田一漁　長隠改

蘭の蕾ふ代の著の面くし
水ふ咲南國の竹と四条の竹
ら主ふとふ新てかまつち
柳ふ秋の絵主色ふ
花おして主ふおひ如市巷
晃の面へ行と百もふく武の樂
尼ふくと枝の明ら　蓮
双柏の面ふ　極月の歌
蓮枯て沈八墨絵のふ書
主侯も仙人の松へ一夜新

意の蕾
意味わ
翼色の
ら絵し
色角
ひ西を
ま主す
柳柳
ら絵し

## 相應庵

湯島
市徒町角

一漁門
杉浦晋阿 秦川改

[illegible]

## 花實庵

上野山下
屋八坂向町

一漁門
山田長隱 曲秀改

[illegible]

柳々庵

雅弱文臺に
會表の句を
手柄なり
翼文六
世話多
く賂し

一漁門
石川荻條

一漁同庵

蕎麦振舞の亭主は備え
大きな皿の刻む千大根
咲やすと朝からの漬菜賣
行くの夜たまる鴨の毛
座頭は音さすむかけ声
芥ちる火鉢で行ける女郎
時花らぬ醫者の論まて下手
ころり足を退く足下加減との
椎の實の勝土器に秋
茶筆の中なる踏也　戸なりき

芦九舎

和らかに
作意して
面白き
趣あり
題の句に秘
術あり秘
伝すくと
作意あし

貞山門
金原貞屋

誹諧二丁目
奈良屋のむかし表

折ゝ人に交りわかれし書記山
直る中肉も達する夜の工面して
能當るべく集て戻る番を思ひつく
縦もあるに隣かて迷る郭し
かし纜の負へ蝦八か傳ひて
うつりに抱く兎重さうに
眉の四月より潮しいたく書く
妹の胸は昔に火と煙つく
かくして実し折節身を焚
縁路へ見る女房けやり於

## 東巴庵

一誹和ニ入る
作りへしかし
れいしこも言へ
水車風車など
ら詠し
ひんら作ほと
名結ぶ交
江戸名所
のあまり
ら詠し

## 北沾涼

神田
竪大工町

[illegible]沾涼門

- 火ともれ火ふる炭の夜鍋し
- 白粉八歳と花ちる初のし
- 隠れして又平ツ云ふうき
- 手の届く柳を詠ししてハ雪
- 名車寄ぶ行不　寺の庭
- 篝て花実出を水物
- 東と名て寒さ手拭の夜
- 文夜田楽の花みより
- 菜摘のか山ての句年寄
- 梅花寒月　香の神奈川



## 畤庵

孫弱き吾
し
鳥むしのる
しは桶わくよ
とく綾包
三月臭之
し
紫八夜つ
こ
返るあし
自て帰く
仕立へし

## 増田眠牛

當時旅行

[illegible]門

- 松の屆く　絶世の夜
- 海ふ居る子の火の火と燈
- 大雨ハ　月て　呼しれ
- 浪の角芽の出ると路ある
- 柳移の詠と　通叔　六月
- 我言柳よ墨鰻もなし
- 夕ア割る　珊瑚瑚の神酒
- 梅竹の鶯へ母の為切也
- 氣高遠の力と墨て御ぐ分り
- 柊子の色よ　紫衣の人相

## 梅林庵

小石川　蒼執門
白山素門

足高五連

[illegible]

## 黒釜庵

柳尓和泉橋向　先師治山後蒼執門
左京道柳屋敷

田口芳所

[illegible]

## 万歳洞

筑後橋市門前右　来示門
片側町料亭のうち

小菅宝馬

[illegible]

一神社詩歌

## 一陽井

田和町
西側裏

谷素外

[illegible]

## 姉刑

素外門

飛井町　嶋津富

袁河岸

[illegible]

## 田東屋

赤坂三丁坂上　素外門　山内花縣

[illegible]

## 萬古庵

坂本二丁目　百泝門　小川尹督

[illegible]

## 正月庵

湯島天神　乾什門　野木来爾

料理茶屋

[illegible]

# 三寸庵

かしわけもなり
景色な道
法華のます
ら染し
秋葉の寺
へ身まし
桂物な道し
意こ白ま
百物以祭

本石町かなや 萬英門
門弟 範屋のうち

## 波多野萬英

旅行は諸国の名に大社
法華寺に稲荷 済
・寺まで一夜の身と付く経
馬上申しく初音ある江戸
行は折ふしとも何古く首
折掛の旅へ帰れる不孝者
都の別と月切の妻
夜り立て出羽や秋の為
国論の謡の竹と柳なと
比丘尼迄出去の煤掃



# 時雨庵

頭をさ白まり
ひめかて巡し
桂物とるし
梅とふる
手く
席こ言真
の
得てり人かり

浅草新堀越 乾什門

## 西村文郷

未婚の子の指やゝも手ほ出物
蜂ーハの妻のふり也 銀ゟ名
酸すて見てひやうか泥亀
・かる鰹や岩てもうて宮川
梅咲て柳と通ふうしみ四
・心て雨露そへ友り橋
迄ふて走北備中の巫
・気かぬ落葉と梵ふうく挟
喰ぬ手枝の蒔山と好り
一日は暮れ細石土用丁

## 手枕庵

来爾同町　乾什門　三上寸松

大きなる寺の春を守て行
花のれいも寄て云日
春風に吹つと一口吸ひおし
夢ぬ寄て我もおて行陽子夢
尼の紙衣のてくくを樊
蓑屋町へと陽子て云
うつくと背戸を出る柿の花
生酸の時拾ひ出すうす
離れる所の形を知ハ初春
こゝろ付ける能ひくこゝろ当ル次行

## 社日庵

来示同庵　来示門　野木季夫

一度は叶て毎の横へ切
振袖の今ハ猫の蓋
布板と云ふ師も行
蓋を遣つて竈
加ハ巨燈首ハ人
舟のさきつて蓋を盛
芋虫の法ひてかを羽子
さこの人寄ひ云日
腐りもしし寺の長刀

強弱変ってもの不点
ひ杉わり
布板の
蓋を
表衣の

## 東西庵

浅草観音院内　素外門　花縣の三番後は不遠加
日吉院借地

### 岸田爸梁

[illegible]

## 新花林

駿河町　貞佐門
城後公右晋唐南子表

### 皐月平砂

[illegible]

## 風窓

弦の月
買ふ秋の
白ふ色し
馬橋寺
晴天諸尼
祈宜　富士
秋ふかき
窓閑ふ林
ふ法し

巽窓湖十門

## 深川湖十

翠町
ながら四の目屋の表

数々をこうかを
蓮の芽出しかを
為帽子ぬくと天窓く稽
大門　食一碗　赤の文
寺　茶の巻　巻の花
演芸　見つる　の清
新下へ　る社　う稽
馬醫者の業をきむ白の表
橋　ふて　ハ馬て出る
駒形　ハ　僧　稽



## 一石房

光り　ふ
附ふ　ふ
の　ふ
一新ふ
白しめし
ふ
ふ
恵の白
ふ

巽窓湖十門

三十間堀
三十目四十目横町

## 洪珠來

回ふ　利く　玄沢の供の　九頭
ふ　ふ　ふと尼の　水
角力　中く　鉢を帥　の
首ふ　小陳の酒盞
茶橋と　ふ箱ふ
石の上の　く　猫が　上ふし
団ふ　ふ　連ふ　ハ　ふ
ふ　ふ　ふ　元の　ふ
いさ　ふ男・ふ　ふ
水清　ふ　喰　頭　の　通ふ

## 天目庵

[illegible]

## 明田秀億

灵岸島漆樹　茅仲門

通り茅屋店の表

[illegible]

## 越入道

## 津下吉門

木挽町六町目　湖十門

[illegible]

## 巢居

室町を町目　盤谷門
東側紀伊國屋長次郎表

武内栖鶴

[illegible]
大工の先へ気を晴す亭
刺[illegible]
杉原と消へたい姫す緋の衣
・
雌伯の[illegible]
種種の[illegible]
女房八[illegible]
袈裟掛の[illegible]
・
別荘[illegible]

## 三瓜庵

高砂町　湖十門

内田柳尾

[illegible]
加茂の里柳の蛙と多茶紡入
細不[illegible]
代さし[illegible]
・
紫陽花
柳[illegible]
宝引の[illegible]
[illegible]
一人云
玄[illegible]

寓言斎

雖てあるも
字ある通りの意
風るある
一諸何物
をる名を得
るし
句ある
意味あるし

喜門
日庵

吉門
大江匊枸

被薫てく々中ある 法
尼の身おもしろ意の勝歌
松緑ある和の日傍を何かるく
悩まれ廣 梅有る俗
絵の供をれふも道を掛翁
小人渇 騎り都ムても大きき
衣尊の雲と詠し 八俗衣ある
蕎麦擦は温飩のあるえんる
君のこし 年ふ 動摂
諍耳は千歳を淡りて蛇の白意



郭寛

利しうし
歎の白意の
白全都林
さしつる
化るへし
尼のえふ
ろ添し
廿人物きそ
れへし

糀町壱丁目角 湖十門
新道
郭春堂

穀の日る花 吟ふ 魚え 銘ふ
湯のうちる出説の香見て甘着
小乗つく来る 仮名の積花
病よう出いそく 辯よぬ
蔓物の法縄をおふとし
風ちくす新撰て落る茶摘府
利風ある 鶯 中く俗
仮名て書わと長い保数の君
迂害の知らぬ 貴る 陰こる連
九丁九夜 変オツトも男 あかく里

## 軸窓

強ニ[illegible]
[illegible]
湖イ矣の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 湖十回庵

湖十門

深川本者

近道小印懸板多名 鰐麦
第之度所[illegible]
物中之道[illegible]伸ル 育鶏
通ル[illegible]
衣紋[illegible]
魂祭 玉の臺此戸一枚
象図ヲ出シテ置テ 法祈
入札の 安ひ大工之 神茅
薄の家 武士の 職人
家主之第ノ 御講の賛素袍

## 筏力庵

強弱文已
玉漆皆
神祇 在の
樓柏
平物矣
の所ハ

## 桑岡貞喬

瀬戸物町 堺屋去 平砂門
たちこ屋のうし

まゝ寒く樹色の宮義 [illegible]
盗人 [illegible] 孔明
伏水のう [illegible]
用皆小 醫者の 母加減
皆色 [illegible] 初沙の母
見多度の [illegible]
南京 [illegible] 睦まき
薄と [illegible] 指の 定まり
其好ハ [illegible]
神国之 蓮池 [illegible]

宗寛

ちゝすむし
神楓燕の子
落る張る
あとの月も
まくるわり
湖十奥の
三兵情も
めしいば
わろへし

湖十同庵

湖十門
角田爲裘

大晦日きて娘の 男坂
女の月娘二日目て 菖
蚕柏年神より八朔り蓬仙
陳猿をいて修る了陀く身柳子
國炉裏へ神を思ても末の端
内かりと百柱るは扇より
芝へ枕の下り書籍 六月
湯女の眼も一男り凉く
女斗りて厠かしりと
涯間の唄る修る 底念

夜雪庵

強弱多し
毛角
云つけて
夕と照
一し

通り露月町

先師貞屋淺棲川門
東金羅

廻る月足るまゝ見て萬歳 對馬
巴山吹中もよし仲
去年の役者初の三圍
衣笠の鹿も新と春日山
御樽仏小家衣の景八よし紙
婦女郎も見も二丁目
あやれ柳のかけよ梅花
掃溜の隣は琴の組子浦
松茶の踊りもここそ松つといい
かし園るかへ[illegible]は初ね初徳[illegible]

## 桂窓

強一ゐ文臣し
嵩附の家猿　子
与佐し
付おてとに宝と
こり末しそ
紀遠の人お
少し仰く
數多川の
仁の法三し

糀町八町目　湖十門

## 牧冬渉

眼ヶ傍手て医者らしい醫者
早乙女の子は松ヶ根小株て居
入年八九二三回　門ト源と
師走のき子金廊よ小袋
〃内の素え叢堂の判
角トのされる州書れ鬮
一体の国　さき達く生れ付
見網小をうんと雛ゝ蔦こく
東山も牛よ引タ、不知り
温泉くづて忠宿　きのしむ



## 萬葉庵

わらうし
月影よ　言立
おり
秋　江戸香立
の北条臣
尼蓮女房
操多　子
不如露
こゝく来
剛此写
好物し

濱町山伏井戸　白凉清六地門　平砂門

## 皐月東寓

僧正て府白浮地の枝高秘
押入てまと浮く看のこうく次
枝護宿傍と人は母う忙て
幸向へはもる様す酒も
閑卿と海柄杉子蔭哭新餅つゝ
杉白身傳　川岸へ僧
當てわりし舟宮の菜厳下話
如理て淋ゝん棟も　淑尼
学て杉まさ百式日の繒
秋情のうつと厠子長歳して

規矩庵

張一張氷の逆し
舩帯を
並びて留
来し
園老
彩鞍の
多けると
長話し

人形町通
田所町西側裏
柳尾門
邑樂渉十

紙雛の角力をせる男の子
下廻り雲路の影　根芝
いろ〳〵以萬像を好む得其節
仲人の暦て消中をも取て
宮に菊香を淋しく思ふ里ひき
十くよ八姫の寝　根
清るよ二日母の衣帯
島枝を庵に下女は振を上
、檀神の折く獣く鐘の中
、命捨ひの破船のをわり





雲母坊

松しるも
あくも雲
高情逢し
大きく留
一し
衆父も
はや
四とゐふ
よかくあり

鍛冶町二丁目
菓子屋十郎右
湖十門
千歳園月

小鳩と源を泉ほの鳩
浦静かに鳩の子の底
松葉の解てそれは是経めて
逢ぬうち石の井八荒むしく
鳩と進ふ鷲の群に大御盤
草花も花の月を渡る初子
花の淡首一勝られなる行
雛供御切火折をふまかる
下細とるふ行ても水の陰さ
桜岩よ病て行く陽中の塩

独立 徳山亭

陽の頭文字し
杉うし首
大きく名を
付る一し
某仲の
意味
あ屋

八町堀

硯建大非文の爲

米仲門 文角坐隨斯

榎本牛呑

一両扇す大佛の般
所断て有やかしやの寝る残
楊子の河すゝ麿と押渡し
此樹の画図に細安富の大釜
中より馬いまる京の帰らぬ通る爲
孫らく勝河る提のちらうき
国の修寺小岩後為て名ら
音深く春も雨や仲の母
清らへ御す馬士の大声
燕子の跡 朝日かゝやく



旭連舎

一旅ちそ首
るか仙のゝし
字あまり
大名 撰集
買色 云府
玉菊 中元や
玉菊し吉原燈籠の初まる始也し
とゞ行く又次
くるお京む
此へし

日本橋

先師存義 文角栖隱

名池まる所撰後出りき

東條萬立

嫩ふらい第てぞ雪の言ひ居也
撰集既満千針も古今の袍し
大名も宵の蓑掃ふまされて心
角ちに掃出す説法の場
大名すゝむ 玉菊り容
人まぞ知ら孫化の思ひは
櫻ちこま してゐも柳を沛らせるや
鬘は刹つても羅八曲ろさし
燈籠か兮き玉菊の素よ夜し
中宿よ綾も襟もおりきやか

## 合歓堂

孫頭も左近
實情を
乞申さ
むすぶ也し
是の句
素丈
秋叢の句
よろし

西の窪
神谷町
玉桂沾山門

### 内田沾山

一 千鳥啼遠をおもひと
肴病の絵ヶ桔梗の夢殿取
濯り中よ寺のしる福豆
田の長陽よ発渡り之
ふ拍子かりにし隠を見えて拍
ここそらふふへの五丈ヶ拮揮
者りく　了菜園まて雲ふ
新地へ古ひ神道者越ス
異見の西老御能相見人
歟覧よ入是　儒士り
廃椒り

## 龍心亭

賈父の句
鳥兜 水車
松の尾神
神祇の句
恩愛を以て
和らぐ
余三一

両國柳橋
沾耕斎隣木天の内
玉桂沾山門

### 和田海旭

諸の多く亂の能ふ三ヶ日
蝶紙刈日ふ幸そみろ石敷
水も霧て居る滝の引脩ッ
枇杷葉ト撫る　松の尾は神
長刀の御の　庭て　口明
鳥兜ゑ乃て不老つる　魚
楊ゑ彩る文目は鐘も勝らり
節句風りて白く生りて神の馬
今貝小料ゝ蓼初の読を晦り
遠りの子の麓ると　云てるよする

一万堂

松しつし
一葉にも
わきまへぬ
盆の月
言外種物
ミ絵し

芝日向中ノ橋
川ヨリ北横小路
玉桂沾山門
竹内環山

、喚鐘と鳴ぬ中のよん初さくら
都にはしみ織る臨月
長枕外からしれぬ縫の首
切な名とげ舟抱て出る
女房の隠を常は書出し
初撫首男とりん催たり
寐がりしもくの夜と寐ぬ風不
、寐く虫と一生へ別る膝をひ
、光の罪くさまよ鮹 蛇へ来ら
・稀なる通りけて㊂の奇なる 松

無徳庵

穐しるく
信ミ二し
恩愛の月
哀の月
数も
見えたる
此わ哉
ほし

芝赤羽
新門前片町
玉桂沾山門
高橋岱貝

、行くくと子とえる 掃悪
萬猫も切らぬ明八ツ身
、親ゆくと気のまる言色し
慰る数伽は婀の外に煖く
己の仔ぬてゆかる 龍捨
・女の年をそらしぬ 神説
寺古し境の称る火と入く
並とかせて妻ひ子のひろ
五百㊂やぶ濡らぬ虎の雨
逆さまるる呑るなし 義も女の艸

## 是花坊

[illegible]
買色
名所
[illegible]
下の[illegible]
[illegible]

赤坂表傳馬町 沾山門
一丁目醤油屋ノ裏

## 堤風道寸

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
小形にて[illegible]の[illegible]
[illegible]
風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 仁花坊

一沾陽[illegible]
軍中の[illegible]
秋の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

麻布市兵衛町 沾山門
中ノ辻番向通り

## 岡林石鯨

市[illegible]の[illegible]
[illegible]
醫[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
大徒の[illegible]画と紅[illegible]の顔
市代の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

## 柳下庵

一流柳下恩雲の号を称し秋世帝の号柳の神祇の名を付ス

桃町蛤店　沾山門

## 省不言

市井の人なれども詩を吟ず　寺
[illegible]時八思の出を京
誰か者の春を楼もみとりして
絵てもなれ色ある浪の城
柳の命を活かく閑伽桶
生酔の麻と女房を笑われて
子の代来園の灯とて思切り
動化仏菩薩と拝る名称の門
ふく生れて神を淋しき
古彼の国を吐る新

## 柳下庵

一流柳下恩雲の号を称し秋世帝の号柳の神祇の名を付ス

浅竹三筋町　海旭門
ぎうてく店の内

## 垣紫鳳

命一冊の柳を京の寺
ちりそと花を春を精進日
墨も干ぬ扇と学ぶ梅の宿
仏かも陽子を学ぶ京の京
年柳を出して花を初
入海人参所かハ法師寺
を文の絵術を学ぶ大徳寺
貝を吟ずれ　幸海
雪雲八月を花を
物思ひ鶯かも柳をハ

## 六歌仙

麻布十番
竹町稲荷の前

沾山門

### 村松子鷹

[illegible]

## 古来庵

銀座町三丁目裏通
鎗屋町新道

### 馬場存義

[illegible]

## 燭庵

堺町通り和泉町げん屋店

## 文買明

長冢さの何ぶつ長さの陸の奉
時雨もも句神〻〻〻 フツ玄
我ものて家物てあい五十毛
えもこ言のすり物 祖そり
大門も潮〻〻盛と麻の声
江戸名物の二階〻〻出家
甲斐と弱何のもの山〻
夜は〻扇〻持ね 正月
五代〻燭を百〻年〻百
江湖の勇〻 白雨とも体

## 木稚庵

鯉朝左
鳥帽子照月
梟の奉 梟のえ
のすく
柳大倉 張芝長の
一番ものき 点し
月〻〻〻〻
点の〻〻
古〻〻
考へ

## 谷口樓川

神田柳原
土手ハ九月〻

陽〻〻き〻〻て鳥〻から〻き〻り
あ〻ぼ悔〻〻も琉球の旅
光陰の奉長竜の多切く
郭〻 松原 わ〻〻〻
印燈〻 橋姫の多ぬ〻〻〻
音高も船ふくも 盤 〻て
高の場〻〻〻淋しいと 言
解 橋〻 陽春と送る雪燈 茶
作出〻ふ梟の奉〻〻烟竹の海
志著〻原の表とをけて 嘉

## 伽羅庵

[illegible]

## 小栗百萬

[illegible]

## 獅子眠

[illegible]

## 谷口雞口

[illegible]

## 深月庵

茅場町
坂本町横丁通

## 三上祇丞

[illegible]

新橋
[illegible]

色[illegible]
長[illegible]
一[illegible]
女[illegible]
新橋[illegible]
凱陣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]

## 新樹庵

銀座町
二町目西側

## 花隈圖大

[illegible]

## 樂成庵　藤中温克

わらべ橋
かい板子店

[illegible]

## 仲明亭　北在轉

神田多町二丁目東側

[illegible]

## 自在庵

[illegible]

## 仲祇徳

[illegible]

## 神田庵

[illegible]

## 木村小知

[illegible]

## 雨夜庵

南八町堀
立町目稲荷横の西

### 山本亀成

[illegible]

## 眉斧

樓川園石

### 田女

[illegible]

## 居壽觀

中橋上樋町
樋町おまん稲荷の側

**壽秀國**

かくもわたくし一百歩
家と暑く暇く六月
行屋の法華宗の遠国寺
夢切て南天もなし 法和
秋の風九天の音の虫
家とも鳴かして溜る小坂
色さめて紅葉つる竹樹
恵まれ前 堂の石文
水仙と向かう世の色
一瓢切く寄植花う完

## 元夫庵

芳場町
坂町地蔵

**大草原可因**

血刀て酒屋と知く小夜衣
便くるる浅茅寺に掛り
門田一枝永きを書いて
子の樹ふるる所を
ちて 蛙の声 也し
藤棚の 入
去る空と 樹の生 辞
秋先の物と神の灯て 涙
剥ち 元寧浜と女の呼ん声
茅葉つ 一撃 鳥の 思い

## 連葉庵

神田
橋通り一町目横町書店通

### 志村常仙

[illegible]
秋の白
[illegible]
[illegible]
心[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 宗梅居

市谷系代記

## 笠家逸志

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 露布庵

小石川
上水舟橋町

峽田菊堂

[illegible]

## 青陽庵

目黒橋
ひとの町一町中ほど

曽古明

[illegible]

## 黄雀軒

一説孫子
陣中の白
蛇の白
物遠く
小さく

## 遠山雲柱

牛込
若葉八幡前南手

麈不義て移り蛇を吹落し
大供養皆俳杜として謹吾て
復魂を慰ふ云へ分俳ちくゝ
味ひ云へ云分ち　翠の藤
幽見る分ちて巴の町　巴の点
霞不見遠く点をぬく　蛇
尚ほ十月を陣中て分
梅咲く割て麦　陶ひすく
二世ひ仕ける丈　ふもかすを大根
待ひ花の風も君を呼く

## 星霜庵

桜町　平河町
一町目　鈴店

所町一番　乗り手ひ子
行ひ町ひ　ぬ云ひ八町如庵の
井戸ひ　ひて梅花の豆腐売
物ひ　塔記の塔売
小云て買　場の明ひ
湯漬の分る　湯屋の灯　売
袖形て一寸　掃出を市ひ蓙
赤富の　袴ひ多ひ　杉伝の灯
子の茅　東服ひ記ひ　唯　初鰹
手拭て　辰ひ程掃　茅　屋

## 熊谷白頭

## 三呼庵

やうやうとして樹
うゑし
買色を
わすれ
傾城如前
元七の茶杯
いやく
仙ゆし

## 河野丈天

在猪田屋

爲原や　ちゝ柄のうつゝ　柳　哭
廻板もらく　ぬ　秋の　ち　粧
永思ひ　夢〳〵　咲ふ　味の　内ゝ入
道の花　毒　水の　風　元　と　芙すも
薄の　芙　ゝ　ゝ　思　ゝ　多の　清
星　れ　ゝ　も　杜　丹の　西日　さ　ゝ
濯　ゝ　て　弁　ゝ　花　か　つ　ゝ　ふ
星　芙　ゝ　ゝ　る　中　ゝ　毒　ゝ　の　橋　峡
大　年　の　夜　い　埋　年　福　哭　仲
芙　ゝ　と　菊　酔　考　ゝ　か　ら　ぬ　ゝ　し

## 大中庵

櫛主

頭　ゝ　ゝ
長　ゝ　し
ゐ　ま　わ　ゝ
孝　ゝ　樓　樹
釈　教　の　ゝ
ゝ　ゝ　し

## 開　幸志

原伊丁横町　先立太門
竜宮町
小ゝ原丹下ゝ長屋

孝　れ　ゝ　も　神の初穂の二釜光
如　て　待　て　待　ゝ　重代
源　仆　の　枝　も　形　ぬ　菊　ゝ　ゝ
言　猫　の　地　代　れ　負　ゝ　帆　と　ゝ　ゝ
待　ゝ　ゝ　枝　の　仆　ゝ　も　運　の　ゝ　言
破　ゝ　ゝ　と　ま　て　納　ゝ　る　武　家　れ　春
樊　付　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　の　の　一　日　ゝ　ゝ　し　源　樂　像
教　割　の　片　く　ひ　く　ゝ　図　両
樓　ゝ　ゝ　て　孝　像　像　ゝ　待

## 勝沼大道

宇多川町

極上
## 貫酒庵

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

独立

## 枝賀橋

[illegible]
湖十余の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]川
かふのゐの表

## 笠抱節

千載集は矢尾　研中
義[illegible]
今[illegible]
[illegible]と剥[illegible]ぬり禅の[illegible]長の
蓮[illegible]の後部の[illegible]白[illegible]
詩[illegible]吐[illegible]膳[illegible]唐[illegible]を入[illegible]
秋[illegible]く[illegible]馬の[illegible]の[illegible]
卯の[illegible]れと[illegible]は[illegible]
佛[illegible]
[illegible]の年の[illegible]



独立

## 素湯庵

[illegible]

三谷
四中地蔵寺

## 笠家左蘭

先師曲房門

[illegible]の[illegible]方[illegible]
深州[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

獨立

## 珠重庵

[illegible]

阿波川町　出羽乾什門

柳稻荷横町

## 根本雪舟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詩諧之名出滑稽傳所共知也或何容齒牙此集也欲使彼競優劣者探宗匠蘊奥必逢其原也能秘諸帳中則孰敵之得俊句麤藻猶取囊中物雪子之

舉大矣至矣余忘其固陋記卷末云爾

明和戊子秋　恕川舍　徐水

誹諧籠後篇　惣宗匠句〻点式印譜委〻記　芙蓉散人雪成著　近刻

四季發句帳　江都惣宗匠四季句悉〻集　芙蓉散人雪成著　近刻

誹風柳樽　新堀端考士万句合抜書　初二三篇近出来　補助　櫻木庵

源氏活花手引草　千葉龍卜先生活方圖　并四季花寄松茂齋五淩著　西面稻出来

和漢軍談記畧考　諸軍談年暦順付委〻記　并名數書名寄　西面稻出来

明和五戊子稔　東叡山下竹町星運堂梓　花屋久次郎